

一との関連に着目しつつその競合関係を明らかにする。

2 福島県南会津郡南郷地区、大沼郡会津高田地区（積雪 2m 前後、雪日数 100 日以上、1 月の平均最高気温 1.3°C、同最低気温 -7.3°C）の農家 20 戸を選び、冬季と夏季それぞれ 10 日間における洗濯について調査用紙を配布、記録してもらい、後に聞き取りを行った。

3 冬季と夏季及び他地域の農家、非農家と比較した。農業経営の形態上冬眠期ではあるが、洗濯の設備、乾燥過程における諸障害から農作業衣を始め一般に洗濯回数も量も非常に少く、最低にとどめている傾向が見え、農閑期にする季節外衣類の洗濯も春先を待ってする。乾燥に要する時間が非常に長く 2/3 が 24 時間以上に伸び、その途上で乾場を移動する為に汚れたり、又殆んどが凍結状態になって繊維の劣弱、損傷を来し、最後には火力によって乾燥している。その為に食事・団らん・接客の場であるイロリの周囲に乾し物が下がり、乾燥用のコタツの必要等、家庭生活に諸種の歪みを与えている。

11 積雪寒冷地の農家の衣生活（第2報）

—冬季の洗濯について—

福島大学芸 高橋キヨ子

本報告は積雪寒冷地農村における家庭生活の特質と生活改善に関する研究の一部である。そのうち衣生活に関する側面から、積寒条件が家庭生活にどのように影響しているかを把えて改善の資にしようとするもので一部は本年7月に家政学会東北支部総会において発表した。

1 積寒地農家の冬季における洗濯・乾燥の過程の実態を調査し、他の生活側面—主として衛生面、住生活等